

J - クレジット制度管理者 御中

実績確認概要書

平成30年5月7日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	A重油焚ボイラーからガス焚ボイラーへの更新プロジェクト
承認番号	KC0301
排出削減事業者名	呉羽テック株式会社
排出削減共同実施事業者名	丸紅株式会社 (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	呉羽テック株式会社・本社工場 (住所：滋賀県栗東市市岡255)
事業の概要	A重油焚ボイラーをガス焚ボイラーへバーナー更新することにより、二酸化炭素排出量の削減を図る。
排出削減量の計画	2009年度：763tCO ₂ 2010年度：915tCO ₂ 2011年度：915tCO ₂ 2012年度：915tCO ₂ 2013年度：886tCO ₂ 2014年度：935tCO ₂ 2015年度：906tCO ₂ 2016年度：906tCO ₂ 2017年度：151tCO ₂ (事業実施期間合計7,292tCO ₂)
クレジット認証期間	開始日 2009年6月1日 終了日 2017年5月31日
排出削減方法論	方法論番号001: ボイラーの更新

2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日～2017年5月31日（第3回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	3,414tCO ₂ （2013年4月1日～2017年5月31日）
-------	--

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 本実績報告期間における都市ガス使用実績の確認、現地確認、事業者へのヒアリングにより、対象期間中の設備稼働を確認した。□□
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 都市ガス使用量が事業計画どおり個別メーター値を基に集計・算定されていることを確認した。 2) 活動量の正確性 承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、個別メーター値により燃料使用量の記録・保存が適切になされており、正確に集計されていることを、モニタリング記録の検算、事業者へのヒアリングにより確認した。 3) 単位発熱量、排出係数等の確認 排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係

	<p>数等は、方法論、J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.3.0、及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 排出削減量の算定結果をガスメーターの集計データとの突合、計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に誤りはないことを確認した。</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は 2013年4月1日から2017年5月31日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2017年5月31日となっているため、クレジット認証期間の終了日を超えないことを確認した。□</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

承認排出削減事業計画からの重要な変更点として、2015年9月21日にボイラー燃焼排ガスの熱エネルギーをボイラー給水加熱へ利用するエコマイザーを設置されていることが挙げられる。エコマイザー設置により、燃料消費量から計算されるボイラーの効率(ε_{PJ})は向上することになりベースライン排出量も増大することになるが、本クレジット認証においては、排出削減量の算定に当たっては、ε_{PJ}は変化しないと仮定し、保守的に算定している。今回の変更については、方法論の適用条件 2,3 については影響を与えるものでないことから、排出削減量の算定結果が過大になることもないと判断した。

6. 特記事項

本実績確認期間における省エネルギー量として、原油換算 -60.3kL、熱量換算 -2,338.3GJであることを確認した。

以上